授業科目	情報科学 I	単位/時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科 1年	担当教員	大黒 佐智男
授業の目的・テーマ	パソコンの基本操作、文書作成ソフトWord、表計算ソフトExcel、プレゼンテーションソフトPowerPointの基礎やアプリ間の連携を学ぶ。またインターネットや電子メールの活用方を学ぶ。		
授業の到達目標	社会で必要とされるパソコンスキルを身につけ、Word・Excel・PowerPointを効果的に使える実務力をつける。インターネットや電子メールのビジネスマナーを理解し、実務的に活用する。		
授業の計画	1	PC室の利用方法・PCの利用と操作方法	26 【インターネットと電子メール】
	2	PC基本操作、効率の良い文字入力	27 〃
	3	【Word】基本操作	28 まとめ課題
	4	【Word】ビジネス文書作成	29 〃
	5	〃	30 〃
	6	【Word】グラフィック機能	31
	7	課題	32
	8	【Word】表のある文書の作成	33
	9	課題	34
	10	【Excel】基本操作	35
	11	【Excel】入力と編集	36
	12	【Excel】数式と関数	37
	13	〃	38
	14	【Excel】グラフ機能	39
	15	【Excel】データベース機能	40
	16	【PowerPoint】プレゼンテーション作成	41
	17	〃	42
	18	【PowerPoint】スライドショー機能	43
	19	【PowerPoint】アニメーション機能	44
	20	【PowerPoint】ビデオ作成	45
	21	【Excel・Word】データ連携	46
	22	【Excel・Word】差し込み印刷	47
	23	〃	48
	24	【Word・PowerPoint】データ連携	49
	25	【インターネットと電子メール】	50
授業の方法	パソコンを使用した実習		
テキスト/参考文献	よくわかるWord2024& Excel2024& PowerPoint2024 (FOM出版)		
評価の方法や基準	試験、提出課題、授業態度、出席率等総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	民間企業、県立高等学校		
実務経験の活かし方	高等学校での情報処理に関する知識やパソコン等の利用技術についての授業を活かして、分かり易く個々のスキルアップに繋げる。		
履修上の注意事項	テキスト・筆記用具持参		

授業科目	情報科学Ⅱ	単位/時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科 1年	担当教員	尾崎 孝彦
授業の目的・テーマ	医療・看護の中でも、今後発展して取り入れられるであろう、情報通信技術（ICT）の活用をするための基礎的能力を養う。		
授業の到達目標	情報リテラシーについて理解でき、通信技術を用いて管理と適切な使用の仕方を習得できる。		
授業の計画	1	情報リテラシーについて	26
	2	〃	27
	3	情報の管理の仕方	28
	4	〃	29
	5	情報管理の実際	30
	6	〃	31
	7	〃	32
	8	〃	33
	9	〃	34
	10	電子カルテの取り扱い	35
	11	〃	36
	12	〃	37
	13	個人情報の取り扱いの実際	38
	14	〃	39
	15	試験	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	パソコン・タブレットの使用あり		
テキスト/参考文献	看護情報学（医学書院）		
評価の方法や基準	提出課題、授業態度、出席率等総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	民間企業		
実務経験の活かし方	企業での情報処理・リテラシーに関する知識やパソコン等の利用技術についての授業を活かして、ICTの活用の為の基礎能力の獲得に繋げる。		
履修上の注意事項	テキスト・筆記用具持参		

授業科目	倫理学	単位/時間	1 / 15時間
開講学科等	看護学科 1年	担当教員	佐藤 章
授業の目的・テーマ	①古代から現代までの倫理思想を学び、自己の存在意義や人生の意味について考え、より良い社会、人生の実現のために努めることができるようになる。②現代社会の諸問題について、倫理的見地から考察し、日常生活や職場で正しい判断ができるようになる。		
授業の到達目標	①ギリシア哲学から近代哲学までの西洋思想の流れを理解する。②宗教の意義、三大宗教の教義の内容を理解することができる。③過去の倫理思想を手がかりとして、自己の人生の意味を考え、社会や人々の幸福の実現のために努める生き方ができるようになる。④現代社会において、政治、経済、社会（福祉、教育、医療等）の分野の諸問題について、倫理的見地から考察し、正しい判断ができ、自己のより良い生き方や社会のあり方を目指すことができるようになる。		
授業の計画	1	序章「現代社会と自己への道」：倫理学とは？ 1自己の発見、2他者との出会い	18
	2	序章3社会に生きる自己、4人生の意味を求めて（職業倫理）	19
	3	第1章「思索の源流」 1哲学と思索	20
		①哲学とは何か ②古代ギリシアの思想・神話から哲学へ・古代ギリシアの自然哲学・ソフィストと相対主義	21
	4	1の②古代ギリシアの思想 ソクラテス：善く生きること	22
	5	1の②ソクラテス続き プラトン：理想を求めて	23
	6	1の②アリストテレス：幸福と習慣	24
	7	1の③ヘレニズムの思想 2宗教と祈り ①宗教とは何か	25
	8	2の②キリスト教：旧約聖書の世界	26
	9	2の②キリスト教：イエスと新約聖書	27
		③キリスト教の発展：原始キリスト教、パウロの回心	28
	10	2の④イスラーム教：イスラーム教の成立、イスラーム教の教え	29
	11	2の⑤仏教：古代インドの思想	30
	12	2の⑤仏教：ブッダ悟りへの道 ⑥大乘仏教の展開	31
	13	第2章「西洋の近代思想」 2近代科学の考え方①近代科学の誕生、②経験論と合理論	32
		4近代の理性的な人間像①カントと人格の尊厳	33
	14	4の②ヘーゲルと精神の発展 5人間と働くこと①社会主義の思想	34
15	試験	35	
16		36	
17		37	
授業の方法	一斉講義形式、グループワーク等		
テキスト/参考文献	小寺聡編『もういちど読む山川倫理』山川出版1500円＋税		
評価の方法や基準	レポート50%、試験50%		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	高知県立高等学校社会科教員（倫理、現代社会、政治・経済、日本史、世界史、地理）、徳島文理大学教員（倫理学、教職科目）		
実務経験の活かし方	過去の思想を、自分自身に当てはめて考え、自己の在り方・生き方や実生活に生かせることができるよう、指導、支援を行う。		
履修上の注意事項	①教科書、講義レジュメ、ノート、配付資料は毎時間持参して下さい。②Google Classroomを活用します。毎回講義の出席確認と振り返り、講義レジュメ、レポート、確認問題等の様式送付や週の間連絡事項がある場合にも送ります。またレポートも頻繁に出してもらいます。		

授業科目	看護学概論	単位／時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科 1年	担当教員	森木 妙子
授業の目的・テーマ	看護の変遷と看護の基礎となる主要概念を理解すると共に看護の機能・役割を理解できる。		
授業の到達目標	看護の変遷と看護の基礎となる主要概念を理解すると共に看護の機能・役割を理解する。		
授業の計画	1	日本の看護教育から概観した看護の歴史	26 看護理論の外観
	2	看護職の資格・養成制度・就業状況	27 メイヤロフのケアリング理論
	3	看護とは何か、看護の理念と役割	28 ナイチンゲール理論
	4	人間の概念	29 人間関係論：トラベルビー理論
	5	生活の概念	30 最終試験
	6	環境の概念	31
	7	健康の概念	32
	8	組織とは、病院とは、看護部門とは	33
	9	病気や障害の概念	34
	10	家族とその機能	35
	11	地域と看護（看護の継続性と連携）	36
	12	看護の業務と法	37
	13	保健医療福祉の概念とシステム	38
	14	保健医療チームの看護：連携・協働	39
	15	看護記録の基礎	40
	16	中間のまとめ	41
	17	看護サービス提供の場とサービス提供者	42
	18	看護サービスと経済のしくみ	43
	19	看護管理とは	44
	20	看護サービスの管理	45
	21	看護における医療安全の重要性	46
	22	国際化と看護	47
	23	災害看護	48
	24	倫理が問われ始めた歴史的背景	49
	25	看護者の倫理綱領と看護実践にとって重要な倫理原則	50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	基礎看護学 [1] 看護学概論（医学書院）、超入門事例で学ぶ看護理論（学研）		
評価の方法や基準	筆記試験・グループワーク・授業中の態度・出欠状況等で総合評価する		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	医療現場での看護業務および看護基礎教育現場での基礎看護学教育		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、看護学概論に関する基本的知識を講義する		
履修上の注意事項	特にはないが、上記「評価の方法や基準」欄の記載内容を理解しておくこと。		

授業科目	看護の基本技術 I		単位/時間	1 / 30 時間	
開講学科等	看護学科 1年		担当教員	竹澤 睦子・小松 美奈子 他	
授業の目的 ・テーマ	看護実践の基礎となる基本技術を根拠を持って、習得できる。				
授業の 到達目標	看護の基本技術の根拠を理解し、安全で確実な技術の習得ができる。				
授 業 の 計 画	1	看護技術を学ぶにあたって (竹澤)	26	〃	(小松)
	2	〃	27	罨法	
	3	(第1章)コミュニケーション (竹澤)	28	〃	
	4	〃	29	試験	
	5	〃	30	〃	
	6	〃	31		
	7	(第2章)感染防止の技術 (小松)	32		
	8	感染とその予防の基礎知識	33		
	9	標準予防策 感染経路別予防策	34		
	10	洗浄・消毒・滅菌	35		
	11	無菌操作	36		
	12	〃	37		
	13	感染廃棄物の取り扱い	38		
	14	〃	39		
	15	感染対策の実際 (野川)	40		
	16	〃	41		
	17	(Ⅱ. 第4章)活動・休息援助技術 (小松)	42		
	18	基本的活動の援助	43		
	19	〃	44		
	20	〃	45		
	21	〃	46		
	22	〃	47		
	23	(基礎看護技術Ⅱ 第5章)苦痛の緩和・安全確保技術	48		
	24	体位保持	49		
	25	〃	50		
授業の方法	講義 グループワーク 演習				
テキスト/参考文献	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)、看護がみえる① ② (メディックメディア)				
評価の方法 や基準	自己学習、筆記試験、授業・演習態度を総合的に評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○				
実務経験	医療現場での看護業務				
実務経験の 活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、看護の基本技術に関する基本的知識を講義する				
履修上の 注意事項	特にはないが、上記「評価の方法や基準」欄の記載内容を理解しておくこと。				

授業科目	看護の基本技術Ⅱ	単位/時間	1 / 30時間	
開講学科等	看護学科 1年	担当教員	南場 香・原田 和恵・寺村 妙	
授業の目的・テーマ	看護実践の基礎となる基本技術を根拠を持って、習得できる。			
授業の到達目標	看護の基本技術の根拠を理解し、安全で確実な技術の習得ができる。			
授業の計画	1	ヘルスアセスメント (Ⅰ, 第2章) (上島)	26	看護技術演習
	2	健康歴とセルフケア能力のアセスメント	27	〃
	3	バイタルサインの測定	28	〃
	4	(体温・脈拍・呼吸・血圧)	29	〃
	5	〃	30	〃
	6	〃	31	
	7	看護記録 (Ⅰ, 第5章) (南場)	32	
	8	看護記録とは記載・管理における留意点	33	
	9	看護記録の構成、経過記録、報告	34	
	10	〃	35	
	11	〃	36	
	12	体温表	37	
	13	SOAPの方法	38	
	14	〃	39	
	15	学習支援 (Ⅰ, 第5章) (寺村)	40	
	16	看護における学習支援	41	
	17	健康に生きることを支える学習支援	42	
	18	〃	43	
	19	健康状態の変化に伴う学習支援	44	
	20	〃	45	
	21	学習支援の実際	46	
	22	〃	47	
	23	看護技術演習 (南場)	48	
	24	〃	49	
	25	〃	50	
授業の方法	講義 グループワーク 演習			
テキスト/参考文献	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)、看護がみえる① ② (メディックメディア)			
評価の方法や基準	自己学習、筆記試験、授業・演習態度を総合的に評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、看護の基本技術に関する基本的知識を講義する			
履修上の注意事項	特にはないが、上記「評価の方法や基準」欄の記載内容を理解しておくこと。			

授業科目	日常生活援助技術 I	単位/時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科 1年	担当教員	内川 佳世・南場 香
授業の目的・テーマ	人間のニーズと生活行動を理解し、看護行為の基本となる日常生活援助の知識・技術・態度を習得できる。		
授業の到達目標	日常生活援助に対する知識・安全に実施できる技術の方法・望まれる態度を理解できる。		
授業の計画	1	環境調整技術（Ⅱ第1章）（内川）	26 排便を促す援助
	2	援助の基礎技術	27 //
	3	//	28 //
	4	援助の実際	29 試験
	5	ベッド周囲の環境調整	30 //
	6	病床を整える	31
	7	//	32
	8	//	33
	9	食事援助技術（Ⅱ第2章）（内川）	34
	10	食事援助の基礎技術	35
	11	//	36
	12	//	37
	13	摂食・嚥下訓練	38
	14	//	39
	15	非経口的栄養摂取の援助	40
	16	//	41
	17	排泄援助技術（Ⅱ第3章）（南場）	42
	18	自然排尿および自然排便の介助	43
	19	//	44
	20	//	45
	21	導尿	46
	22	//	47
	23	//	48
	24	//	49
	25	排便を促す援助	50
授業の方法	講義 グループワーク		
テキスト/参考文献	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）、看護がみえる① ②（メディックメディア）		
評価の方法や基準	自己学習、筆記試験、技術、レポート等総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、日常生活援助技術に関する基本的知識を講義する		
履修上の注意事項	特にはないが、上記「評価の方法や基準」欄の記載内容を理解しておくこと。		

授業科目	日常生活援助技術Ⅱ	単位／時間	1 / 30時間
開講学科等	看護学科 1年	担当教員	南場 香・高橋 智乃
授業の目的・テーマ	人間のニーズと生活行動を理解し、看護行為の基本となる日常生活援助の知識・技術・態度を習得できる。		
授業の到達目標	日常生活援助に対する知識・安全に実施できる技術の方法・望まれる態度を理解できる。		
授業の計画	1	(Ⅱ, 第6章)清潔・衣生活援助技術 (南場)	26 病衣・寝衣の交換
	2	清潔の援助の基礎知識	27 //
	3	//	28 //
	4	清潔援助の実際 入浴・シャワー浴	29 試験①
	5	全身清拭	30 試験②
	6	//	31
	7	//	32
	8	//	33
	9	洗髪	34
	10	//	35
	11	//	36
	12	//	37
	13	手浴	38
	14	//	39
	15	足浴とフットケア	40
	16	//	41
	17	//	42
	18	//	43
	19	整容 (高橋)	44
	20	//	45
	21	口腔ケア (高橋)	46
	22	//	47
	23	病床での衣生活の援助 (高橋)	48
	24	援助の基礎知識	49
	25	援助の実際	50
授業の方法	講義 グループワーク		
テキスト/参考文献	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)、看護技術がみえる① ② (メディックメディア)		
評価の方法や基準	筆記試験、技術、レポート等総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、日常生活援助技術に関する基本的知識を講義する		
履修上の注意事項	特にはないが、上記「評価の方法や基準」欄の記載内容を理解しておくこと。		

授業科目	フィジカルアセスメント	単位/時間	1 / 30時間
開講学科等	看護学科 1年	担当教員	原田 和恵
授業の目的・テーマ	看護に重要な観察の基本的知識について学び、対象の健康状態の把握方法を習得する		
授業の到達目標	フィジカルアセスメントの意義を理解し、身体各部の観察の具体的方法を学習する 心理・社会的状態も含めた、対象のセルフケア能力をアセスメントすることができる		
授業の計画	1	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント	26 外皮系のフィジカルアセスメント
	2	〃	27 心理的側面のアセスメント
	3	健康歴とセルフケア能力のアセスメント	28 社会的側面のアセスメント
	4	〃	29 試験
	5	全体の概観	30 〃
	6	フィジカルアセスメントに必要な技術	31
	7	全身状態・全体印象の把握	32
	8	バイタルサインの観察とアセスメント	33
	9	系統別フィジカルアセスメント	34
	10	身体計測の理解及び演習	35
	11	各部の計測の意義、使用物品など	36
	12	呼吸器系のフィジカルアセスメント	37
	13	〃	38
	14	〃	39
	15	循環器系のフィジカルアセスメント	40
	16	〃	41
	17	乳房・腋窩のフィジカルアセスメント	42
	18	〃	43
	19	腹部のフィジカルアセスメント	44
	20	〃	45
	21	筋・骨格系のフィジカルアセスメント	46
	22	〃	47
	23	神経系のフィジカルアセスメント	48
	24	〃	49
	25	頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメント	50
授業の方法	講義 技術演習		
テキスト/参考文献	基礎看護技術 I (医学書院)、看護がみえる③フィジカルアセスメント (メディックメディア)		
評価の方法や基準	筆記試験・実技試験、授業・演習態度を総合的に評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、フィジカルアセスメントに関する基本的知識を教授する		
履修上の注意事項	演習に際しては、実習に準ずる。事前に自己学習をして臨むこと。		

授業科目	看護過程	単位/時間	1 / 30 時間	
開講学科等	看護学科 1年	担当教員	南場 香・石元 美佐	
授業の目的・テーマ	看護実践の基礎となる問題解決過程とその展開方法を理解できる。			
授業の到達目標	看護実践にむけて問題解決過程とその展開方法を理解する。			
授業の計画	1	講義：看護過程とは、看護過程の構成要素①看護理論と情報収集 ②分析解釈 ③全体像/関連図 看護問題の明確化④看護計画の立案 ⑤実施・評価 (石元)	26	〃
	2		27	技術試験3：実際に自分の立てた計画で看護を実施する⇒評価する
	3	講義：問題解決過程、クリティカルシンキング (石元)	28	
	4		29	技術試験の振り返りと総括
	5	ゴードンの機能的健康パターンの枠組みの理解	30	
	6	事例紹介	31	
	7	演習1：ゴードンの枠組みを使って情報収集した内容を記録に記載	32	
	8	情報収集した内容（記録用紙）を発表	33	
	9	演習2：分析・解釈した内容を記録に記載	34	
	10	分析・解釈した内容（記録用紙）を発表	35	
	11	講義：関連図の描き方	36	
	12	演習3：事例の関連図を記載	37	
	13	関連図の発表	38	
	14	講義：看護問題の明確（焦点）化と看護問題リストの作成	39	
	15	演習4：看護問題リストを作成し文章化	40	
	16	看護問題リストの作成の発表	41	
	17	講義：看護計画の立案	42	
	18	演習5：看護計画の立案を記載	43	
	19	立案した看護計画の発表	44	
	20	筆記試験（45分）	45	
	21	講義：看護の実施・評価	46	
	22	技術試験の準備と練習	47	
	23	技術試験1：実際に自分の立てた計画で看護を実施する⇒評価する	48	
	24		49	
	25	技術試験2：実際に自分の立てた計画で看護を実施する⇒評価する	50	
授業の方法	講義 グループワーク			
テキスト/参考文献	基礎看護技術 I（医学書院）／疾患別看護過程（Gakken） 看護技術の患者への適応（メヂカルフレンド社）			
評価の方法や基準	筆記試験、授業態度、課題への取り組み、課題提出状況など総合的に評価する			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○	
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、看護過程に関する基本的知識を講義する			
履修上の注意事項	自己学習が重要			

授業科目	臨床看護総論	単位/時間	1/30時間
開講学科等	看護学科 1年	担当教員	小笠原 恵子・高橋 智乃・竹澤 睦子
授業の目的・テーマ	障害・疾病をもつ対象を理解し、対象の状態に応じた看護について理解できる。		
授業の到達目標	症状のメカニズムについて理解し、健康障害のある対象の状態に応じた看護について理解する。		
授業の計画	1	悪心・嘔吐 (竹澤)	26 痙攣 (小笠原)
	2	〃	27 腹痛・胸痛
	3	黄疸 (小笠原)	28 〃
	4	〃	29 試験
	5	便秘 (高橋)	30 〃
	6	下痢	31
	7	多尿・乏尿・無尿	32
	8	〃	33
	9	発熱 (竹澤)	34
	10	〃	35
	11	浮腫	36
	12	〃	37
	13	脱水 (小笠原)	38
	14	〃	39
	15	不眠 (竹澤)	40
	16	〃	41
	17	吐血・下血 (小笠原)	42
	18	〃	43
	19	呼吸困難	44
	20	咳嗽・痰	45
	21	高血圧・低血圧	46
	22	動悸	47
	23	意識障害	48
	24	〃	49
	25	痙攣	50
授業の方法	講義 演習 グループワーク レポート		
テキスト/参考文献	看護過程に沿った対症看護 (学研) 臨床看護総論 (医学書院)		
評価の方法や基準	課題 筆記試験等総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○		
実務経験	医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、臨床看護に関する基本的知識を講義する		
履修上の注意事項	特にはないが、上記「評価の方法や基準」欄の記載内容を理解しておくこと。		

授業科目	基礎看護学実習（環境と対象の理解）	単位／時間	1 / 40時間	
開講学科等	看護学科 1年	担当教員	南場 香 他	
授業の目的・テーマ	病院における環境と患者について理解し、看護の役割を考えることができる。			
授業の到達目標	下記に記載			
授業の計画	1	目標	26	左の目標に向けて、適切な計画のもと病院実習を45時間実施する。
	2	1) 入院患者をとりまく環境を知る。	27	
	3	2) 入院患者の生活環境を整えることができる。	28	
	4		29	
	5	3) 入院している患者を知る。	30	
	6	4) 看護の機能と看護活動を知る。	31	
	7	5) 看護学生に求められる態度について考えることができる。	32	
	8		33	
	9	内容、方法、評価については実習要項を別途配布する。	34	
	10		35	
	11		36	
	12		37	
	13		38	
	14		39	
	15		40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	臨地実習 高知大学医学部附属病院 高知赤十字病院 近森病院 近森リハビリテーション病院 高知病院			
テキスト/参考文献				
評価の方法や基準	提出物、実習内容、出席等を総合的に評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○	
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、基礎看護学実習（環境と対象の理解）に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う。			
履修上の注意事項	特にはないが、上記「評価の方法や基準」欄の記載内容を理解しておくこと。			

授業科目	基礎看護学実習（看護過程の基礎）	単位／時間	2／80時間
開講学科等	看護学科 1年	担当教員	南場 香 他
授業の目的・テーマ	看護過程展開の基本を理解し、基礎的な看護技術が実践できる。		
授業の到達目標	下記に記載		
授業の計画	1	目標	
	5	1) 患者を理解し、援助の必要性が判断できる。	
	10		
	15	2) 患者の看護上の問題を明らかにし、援助計画が立案できる。	
	20		
	25	3) 患者に適した看護援助が分かる。	
	30	4) 患者とのコミュニケーションがとれる。	
	35		
	40	5) 看護学生として適切な態度がとれる。	
	45		
	50	内容、方法、評価については実習要項を別途配布する。	
	55	上の目標達成に向けて、適切な計画のもと、病院実習を80時間実施する。	
	60		
	65		
	70		
	75		
	80		
授業の方法	臨地実習 高知赤十字病院 近森オルソリハビリテーション病院 高知病院 愛宕病院		
テキスト/参考文献			
評価の方法や基準	提出物、実習内容、出席等を総合的に評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、基礎看護学実習（看護過程の基礎）に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う。		
履修上の注意事項	準備・課題などを計画的に進めていくこと。		

授業科目	成人看護方法論 I		単位/時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科 1年		担当教員	坂本 寛子・大崎 杏奈・池田 久美子・南場 香
授業の目的・テーマ	急性期及び回復期にある対象の特徴と健康上の問題を理解し、必要な援助を提供できる知識・技術・態度を修得できる。			
授業の到達目標	急性期及び回復期にある対象の特徴と健康上の問題を理解する。 急性期及び回復期にある対象への必要な援助を提供できる知識・技術・態度を修得する。			
授業の計画	1	急性期にある患者と家族の特徴と看護 (坂本)	26	大腿骨頸部骨折患者の看護
	2	患者/家族の特徴 (身体的特徴・心理的特徴・社会的特徴)	27	〃
	3	急性期における看護の基本	28	〃
	4	危機的状態への精神的支援 治療の緊急性と優先度、治療選択・意思決定への支援	29	試験
	5	呼吸機能障害のある患者の看護(治療・検査)	30	〃
	6	肺炎患者の看護	31	
	7	〃	32	
	8	気管支喘息患者の看護	33	
	9	循環器機能障害のある患者の看護 (大崎)	34	
	10	虚血性心疾患患者の看護	35	
	11	不整脈患者の看護	36	
	12	〃	37	
	13	脳・神経機能障害のある患者の看護	38	
	14	脳血管障害を持つ患者の看護	39	
	15	〃	40	
	16	〃	41	
	17	消化・吸収機能障害のある患者の看護 (池田)	42	
	18	上部・下部消化管腫瘍のある患者の看護	43	
	19	〃	44	
	20	〃	45	
	21	胃食道逆流症/胃・十二指腸潰瘍患者の看護	46	
	22	〃	47	
	23	胆嚢炎・胆石症患者の看護	48	
	24	〃	49	
	25	運動機能障害のある患者の看護 (南場)	50	
授業の方法	講義 演習			
テキスト/参考文献	成人看護学[2]～[11] (医学書院) / 必要に応じて紹介する。			
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、成人看護援助[急性期]に関する基本的知識を講義する			
履修上の注意事項	事前・事後学習が重要			

授業科目	成人看護方法論Ⅱ	単位/時間	2 / 4 5 時間	
開講学科等	看護学科 1年	担当教員	岩城 ゆかり・濱田 一豊・竹澤 睦子・内川 佳世 他	
授業の目的・テーマ	慢性期にある対象の活動・休養・恒常性の維持に関する障害を理解し、その援助を修得できる。			
授業の到達目標	慢性期にある対象の活動・休養・恒常性の維持に関する障害を理解し、その援助を修得する。			
授業の計画	1	慢性疾患がある患者と家族の特徴と看護 (岩城)	26	〃 肺がん患者の看護 (宇原)
	2	消化器疾患をもつ患者の看護 (消化器6章) (伊賀原)	27	〃
	3	潰瘍性大腸炎患者の看護	28	腎・泌尿器(第6章) 患者の看護 (竹澤)
	4	クローン病患者の看護	29	慢性腎不全をもつ患者の経過と看護
	5	〃	30	〃
	6	急性肝炎患者の看護 (内川)	31	〃
	7	〃	32	透析療法を受ける患者の看護
	8	慢性肝炎患者の看護	33	〃
	9	〃	34	膠原病をもつ患者の看護 (岩城)
	10	肝硬変患者の看護	35	〃
	11	〃	36	アレルギー患者の看護
	12	内分泌疾患患者の看護 (内分泌・代謝 6章)	37	血液・造血器患者の看護(第5章) (内川)
	13	甲状腺疾患患者の看護 副腎疾患患者の看護	38	造血器腫瘍患者の看護
	14	代謝性疾患患者の看護 (内分泌・代謝6章)	39	白血病・悪性リンパ腫患者の看護
	15	脂質異常症患者の看護/尿酸代謝異常患者の看護	40	〃
	16	糖尿病患者の看護 (濱田)	41	〃 (骨髄バンク講演会)
	17	〃	42	〃 (骨髄バンク講演会)
	18	〃	43	試験①
	19	〃	44	試験②
	20	〃	45	〃
	21	〃	46	〃
	22	循環器疾患をもつ患者の看護 (循環器6章) (清岡)	47	〃
	23	〃 心不全患者の看護	48	〃
	24	呼吸器疾患をもつ患者の看護 (呼吸器6章) (藤本)	49	〃
	25	〃 慢性閉塞性肺疾患患者の経過と看護	50	〃
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	系統看護学講座 成人看護学[2]～[14] (医学書院) / 必要時紹介する。			
評価の方法や基準	筆記試験、授業態度、課題提出状況など総合的に評価する			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○			
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、成人看護学援助[慢性期]に関する基本的知識を講義する			
履修上の注意事項	事前・事後学習が重要			

授業科目	成人看護方法論Ⅲ	単位／時間	1 / 15時間
開講学科等	看護学科 1年	担当教員	坂本 寛子・上田 純子
授業の目的・テーマ	周手術期にある対象の特徴と健康上の問題を理解し、必要な援助を提供できる知識・技術・態度を修得できる。		
授業の到達目標	周手術期にある対象の特徴と健康上の問題を理解する。 周手術期にある対象への必要な援助を提供できる知識・技術・態度を修得する。		
授業の計画	1	手術を受ける患者の看護	26
	2	手術侵襲と生体反応（臨床外科看護総論 第1章）	27
	3	〃 手術侵襲をその看護	28
	4	炎症/感染症 創傷治癒	29
	5	術後疼痛とその看護（臨床外科看護総論 第9章）	30
	6	〃	31
	7	周術期看護の概論（臨床外科看護総論 第6章）	32
	8	手術前患者の看護（臨床外科看護総論 第7章）	33
	9	手術中患者の看護（臨床外科看護総論 第8章）	34
	10	〃	35
	11	手術後患者の看護（臨床外科看護総論 第9章）	36
	12	〃	37
	13	呼吸器の手術療法を受ける患者の看護（呼吸器6章）	38
	14	〃	39
	15	試験	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	臨床看護外科総論（医学書院）		
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、成人看護援助[周手術期]に関する基本的知識を講義する		
履修上の注意事項	特になし。		

授業科目	老年看護方法論 I		単位/時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科 1年		担当教員	吉川 美穂・谷脇 佐織・松高 ゆり
授業の目的・テーマ	老年期にある対象の生命・機能の維持及びQOLの視点から看護の必要性を判断し、看護が実践できるための知識を学ぶ。			
授業の到達目標	老年期にある対象の生命・機能の維持及びQOLの視点から看護の必要性を判断し、看護が実践できるための知識が理解できる。			
授業の計画	1	高齢者の生理的特徴 (老年看護病態・疾患論1章) (谷脇)	26	せん妄
	2	〃	27	認知症
	3	〃	28	認知症をもつ高齢者の看護 (松高)
	4	老年症候群 (老年看護病態・疾患論2章)	29	〃
	5	〃	30	試験
	6	〃	31	
	7	高齢者の健康状態の把握と総合機能評価 (老年看護病態・疾患論3章)	32	
	8		33	
	9	〃	34	
	10	高齢者の疾患の特徴 (老年看護病態・疾患論4章)	35	
	11	〃	36	
	12	〃	37	
	13	高齢者と薬 (老年看護病態・疾患論5章)	38	
	14	高齢者のリハビリテーション (老年看護病態・疾患論6章)	39	
	15	健康状態からの回復を促す看護 (老年看護学第6章) (吉川)	40	
	16	褥瘡	41	
	17	脳卒中	42	
	18	〃	43	
	19	パーキンソン	44	
	20	インフルエンザ	45	
	21	肺炎	46	
	22	骨粗鬆症	47	
	23	脊椎圧迫骨折	48	
	24	大腿骨頸部骨折	49	
	25	うつ	50	
授業の方法	講義・演習・プレゼンテーション			
テキスト/参考文献	老年看護学、老年看護 病態・疾患論、生活機能からみた老年看護過程 (医学書院) / ナンキンググラフィック 老年看護学 高齢者の健康と障害など			
評価の方法や基準	出席状況、学習態度、筆記試験等を総合して評価する。 演習への参加状況 課題の発表態度			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、老年看護援助に関する基本的知識を講義する			
履修上の注意事項	可能な限り自主的に身近な高齢者の方との関わりを持ち、問題意識を持って授業に臨むこと。プレゼンテーションの日程と内容は変更もあり。教科書及び参考文献を活用する。指示された課題の提出日を守る。学生間で積極的に意見交換を行うこと。			